KATSURA　エネルギーはもっとやさしくなる！
供給機器・バルクシステムから
環境にやさしい燃焼機器まで
株式会社 桂精機製作所　☎(045)461－2334(代)
http://www.katsuraseiki.co.jp

製品NEWS

☆LPガス販売店の器具拡販
☆各社新製品の分析的紹介
☆住宅、供給機器、燃焼機器情報
☆役に立つ、取り入れる生きた情報

HS-7A/5B　振力式高圧ホース
単段式調整器にも振力式高圧ホースが使用できます！
入口接続 Rc1/4
消音リングも発売中!!
I・T・O株式会社　http://www.itokoki.co.jp/

レイパワー
LPガス非常用発電機の販売を強化
5年後に年間3万台を目指す

レイパワー（東京都千代田区、内田洋輔社長）では、“災害に強いエネルギー”としてのLPガスの特性を最大限に生かせる高性能エンジンを備えたLPガス非常用発電機の開発・販売を強化している。今年秋に投入予定の新機種と合わせ、5年後には年間3万台の販売を目指す。

現在取り扱う「RAYPOWER 3kVA」は2019年10月に発売したもので、提携するYGK通商製のエンジンはル・マン24時間耐久レースに参戦経験を持つエンジニアが開発に携わったもの。点火プラグを4本実装し、確実な着火と低燃費による長時間運転、高耐久性を実現している。30kg容器2本で72時間（3日間）の連続運転が可能だ。

3kVAの定格出力は、照明やテレビ、携帯電話の充電などに電力を同時供給可能。介護施設なら吸たん器や酸素吸入器などを同時に3～5台稼働できるという。低騒音なので夜間の運転にも適している。停電を感知すると自動で起動するので扱いやすい。病院や介護施設などを中心にこれまで50カ所に74台設置した実績を持つ。

「RAYPOWER 3kVA」本体

開発の出発点となった2011年の東日本大震災の経験を踏まえ、同社では重油などと比べて燃料が劣化せず、供給途絶リスクが低いLPガスの特性を訴えるとともに、屋上やベランダにも設置しやすいコンパクトかつ軽量の特長もPRしたい考え。容器を除く筐体のサイズは横幅61cm×奥行き45cm×高さ110cmで、重量は24Okgと小型軽量。震災では浸水により発電機を使用できない事例があったことを受けたものだ。ハザードマップなどで水害リスクが判明している施設・事業所からは、BCP（事業継続計画）対策として引き合いが強いという。

また、新機種として定格出力を50kVAにアップさせた「RAYPOWER 50kVA」を今秋投入する。燃料はLPガスまたは都市ガスの選択が可能となる予定。複数台をつなげる並列運転も可能で、中規模以上の病院や製造工場、流通施設など大型施設をターゲットに想定している。

3kVAタイプは現在、関電工にOEM供給しているほか、大塚商会などが販売代理店となっている。販売代理店はさらに増やす予定。内田社長は「水害が起きやすい場所など地域の事情に精通したLPガス販売店や電気工事会社も頼りになる。販売代理店としてのタイアップを前向きに検討したい」と話す。特に災害に備えた燃料供給体制の確立について設置先の地元LPガス販売店との関係強化を期待している。

全国LPガス協会
安全機器の普及状況など調査
集中監視システムは23.8％

全国LPガス協会（秋元耕一郎会長）は7月19日、令和2年度「燃焼器具交換・安全機器普及状況等調査報告書」をまとめた。調査は1万9037事業所から報告書を回収（回収率93・8％）し、前年度から加わった集中監視システム設置率と業務用施設SB（EB）メータ連動率の調査が2年目に入り、経年比較が可能になった。

報告書によると、集中監視システムの設置率は23・8％（設置戸数46万6889戸）で、昨年度の19・0％（373万9427戸）より4・8ポイント増だった。都道府県別で最も設置率が高いのは鳥取の46・46％。以下京都45・97％、長野44・67％、新潟44・11％、兵庫42・76％と続く。

業務用施設SB（EB）メータ設置戸数は37万9043戸（前年度37万9576戸）。このうち全L協と各都道府県が進める「LPガス安心サポート推進運動」でも、重点取組事項となっているガス警報器連動遮断戸数は21万7101戸（同21万7323戸）。屋外設置の連動不要戸数を除く連動率は68・1％と前年度の68・2％から0・1ポイント減だった。都道府県別にみると、沖縄が94・69％で最も連動率が高い。以下山口88・27％、佐賀85・59％、青森83・11％、岐阜82・56％と続く。そのほか大分、北海道、岩手、山形の4道県が80％を超える。

バルク20年検査は、告示検査対応数が2223基（前年度1249基）、廃棄後バルク入れ替え8190基（同7209基）、廃棄後シリンダー入れ替え5813基（前4487基）と、告示検査対応数が1000基近くの増加。3年度中に期限満了を迎えるのは7032基（同6451基）で、前倒し対応予定を加えると1万4877基（同1万3342基）になる。期限満了数と前倒し対応予定数の合計は、都道府県別で長野県が2051基と突出して多い。以下静岡1049基、北海道872基、千葉768基、神奈川761基と続く状況だ。

ノーリツ
業務用遠隔監視一体リモコン9月発売
業界初の無線LAN対応

ノーリツ（神戸市、腹巻知社長）は、業務用ガス給湯器リモコンと遠隔監視ユニットが一体となった「RC-9008M-NAU-3」を9月1日に発売する。介護老人保健施設、宿泊施設や飲食店などの非住宅施設がサービスの質を落とさず、運営工数削減を図るためのDX（デジタルトランスフォーメーション）化に貢献する。

遠隔監視ユニットは、給湯器の故障発生を検知し、ノーリツコンタクトセンターにエラー情報を自動送信する遠隔監視機能を搭載している。同社と保守契約を結ぶことで、エラー情報を確認したサービスマンから施設の管理者へ故障を連絡して訪問・修理を行うため、施設管理者が自ら故障の状況説明や修理手配を行う必要がなくなる。

コロナ禍により、さまざまなサービス業において、これまで以上に衛生管理に注力することが求められ、業務負荷がかかっている。同ユニットの採用により、サービスの質を落とさずに運営工数削減を図るためのDX化を推進することが可能となる。

なお同ユニットは、遠隔監視の通信のためのインターネット接続に関して、有線LANに加え、業界で初めて無線LAN接続にも対応した。また給湯器リモコンと遠隔監視ユニットを一体化したため、他の機器リモコンが多

リモコンに遠隔監視ユニットを一体化

TOKAI
5つの国際的コンテスト受賞
「富士の天然水 さらり」

TOKAI（静岡市、小栗勝男社長）は7月14日、宅配水サービス「おいしい水の贈りもの うるのん」で提供する「富士の天然水 さらり」が5つの国際的なコンテストで受賞したと発表した。食品のミシュランガイドとも呼ばれるInternational Taste Institute（国際味覚審査機構）で2021年最高金賞の優秀味覚賞（三ツ星）、国際評価機関であるモンドセレクションで金賞を受賞し、共に7年連続の受賞。

水に特化した品評会のBerkeley Springs International Water Tasting では21年度ボトル入りミネラルウオーター部門で金賞、商品の安全性・品質が評価される21年International Taste Awardsでは銀賞に輝いた。さらに20年12月には日本初の食品・食材評価制度のある「ジャパン・フード・セレクション」で金賞を受賞した。同社によると、同時期に5つの賞を受賞するのはウォーターサーバー業界では初という。

「うるのん」は、富士が育んだ自然の恵みをそのまま届ける宅配水サービス。「富士の天然水 さらり」は、富士山の麓、静岡県富士宮市でくみ上げている。さらりとした飲み口で硬度も低いため、子どもからお年寄りまで幅広く愛飲されているという。自社工場で徹底した品質体制で作られており、くみ上げたその日

富士山の麓でくみ上げる「富士の天然水さらり」

競　洋上　剰　のうまで射性

エ　7月　ワー　（G　力な　石狩　環境　進会　ED　・産　構）　1年　技術　素利　素製　シャ　し、　受け　業実　～23　同　石狩　洋上　生す

※当記事・写真等は、産業報道出版株式会社 プロパン新聞の許諾を得て転載しています。